

除部備守島兩トッオトルンリセエク

死戦員全名百五千四

敵二個師に大損害
勇戦最後の突撃

山田秋山少将 軍属二千も散華

一億捨身で總蹶起 海相談

山田秋山少将

昭和十九年二月二十六日の朝日新聞

環

ブクワン環礁戦没英軍
シンチヤビ島
アンモン島
ルニヤト島
ムラタフ島
ムラタフ島
ムラタフ島
ムラタフ島
ムラタフ島
ムラタフ島

マーシャル方面遺族会
(旧クエゼリン方面戦没者遺族会)
郵便番号 154
世田谷区野沢3-11-3
電話 03-424-4300
振替口座東京 0-93487 番
編集兼発行人 佐藤宗平

昭和19年2月26日の朝日新聞

二十年を顧みて

会長 浮田 信家

昭和38年6月、玉碎の島の遺族の心情が一つに凝ってこの遺族会が結成されてから早や二十年の歳月が流れました。39年2月6日の二十年祭の盛儀は、昨日のこのように鮮明に蘇ります。同じ境遇の者同志が語り合い、力をつけられたことでした。その後は盛り上げる会員皆様の熱意によって当初企画された事業は次々と実現しました。

中でも、42年の半歳に及ぶ船旅での現地調査、遺骨収集、慰霊巡拝は、民間団体が独力で行うには常識外の大事業でしたが、天佑神助により無事完遂できて、その成果はその後の本会の指針として進路決定に大きな役割りを果たしています。43年には、クエゼリン島に、マーシャル諸島とギルバート諸島全域の戦没者の慰霊碑を建てることができました。同島が米軍の機密の基地であることを考えると誠に意義深いことでありました。

50年には、クエゼリン島に墓参が叶えられました。飛行機の全ての窓にカーテンをし、外を見せないクエゼリン島で、定期便の出発時刻を延長し、送迎バスを用意下さったの墓参でした。本会会員の誠意が、軍の固い制度を動かしたものと考えられます。55年の慰霊団は、クエゼリン島内のロッジに宿泊を許されるに至りました。

57年には、ギルバート諸島関係会員の熱意により、ベシオ島に同方面戦没者の慰霊碑が建てられました。その除幕式、慰霊祭にはキリバス共和国の官民あげての御賛同、御協力を頂き、御一緒に御霊の御冥福をお祈りいたしました。

本会二十年の歩みを顧みますと、よくぞここまで、の感を深くします。これは偏に会員皆様の熱意と努力の賜でありませんが、之に加えるに篤志会員や厚生省の皆様、現地官民の皆様方の絶大な御支援のお蔭であります。

本会結成二十年にあたり、永年御支援下さった内外の皆様方に心から感謝の意を表します。

目次

二十年を顧みて	1
..... 会長 浮田 信家	
二十年のあゆみ	2
環礁「談話室」	8
本会年表	10
会則改正について	13
..... 会長 浮田 信家	
本会の今後のあり方について	13
雑感	13
..... 井上 賀雄	
マーシャル諸島情報	14
五十九年二月六日の御案内	15
寄附者芳名	15
故林幸市様の御逝去を悼む	16
事務局だより	16
東太平洋戦没者の碑	16
環礁合併本第四集	16

二十年のあゆみ

昭和十八年十二月二十二日の朝日新聞



朝日新聞
社本東京新聞
創刊
正岡子規

寡兵三千で血闘五日

五萬餘の敵に大打撃

指揮官は 柴崎少将 軍属千五百も散華

陸戦隊の全員の玉砕

行散を撃突の後最 日五廿月一十



聖旨を拜し感泣勇戦

孤島を染む祖國鎮護の碧血

廿一日夜明兩島上陸

最後の報

大本營発表 (昭和十八年十二月二十

日十五時十五分)

タラワ島及マキン島守備の帝國海軍陸戦隊は、十一月二十一日以来、三千の寡兵を以て五万余の敵上陸軍を激撃、熾烈執拗なる敵機の銃爆撃及艦砲射撃に抗し、連日奮戦、我に数倍する大損害を与へつつ敵の有力なる機動部隊を誘引して友軍の海空作戦に至大の寄与をなし、十一月二十五日最後の突撃を敢行、全員玉砕せり
指揮官は海軍少将柴崎恵次なり
尚兩島に於て守備部隊に終始協力奮戦せし軍属約千五百名も亦全員玉砕せり

大本營発表 (昭和十九年二月二十五

日十六時)

クエゼリン島並にルオット島を守備せし約四千五百名の帝國陸海軍部隊は、一月三十日以降襲せる敵大機動部隊の熾烈なる砲爆撃下之と激戦を交へ、二月一日敵約二ヶ師団の上陸を見るや之を激撃し勇戦奮闘敵に多大の損害を与えたる後二月六日最後の突撃を敢行、全員壮烈なる戦死を遂げたり
ルオット島守備部隊指揮官は海軍少将山田道行にして、クエゼリン島守備部隊指揮官は海軍少将秋山門造なり
尚兩島に於て軍属約二千名も亦守備部隊に協力奮戦し全員その運命を共にせり

海軍省公表 (昭和十九年二月二十五日

十六時)

一、海軍大尉侯爵音羽正彦は二月六日クエゼリン島の激戦に於て壮烈なる戦死を遂げたり
二、二月六日附左の通り進級せしめられたり
り
海軍少佐 海軍大尉侯爵 音羽正彦

来るべき時が、遂に來た。

数日来、日を迫うて悲愴感を加えてきた南方戦線の戦況報道に不吉な予感が去來していたが……… 父を、夫を、わが子を、兄弟を南方に送っていた留守家族にとつてこの日の新聞紙面は、万に一つの希望をも無慘に打砕く冷酷非情なものであった。

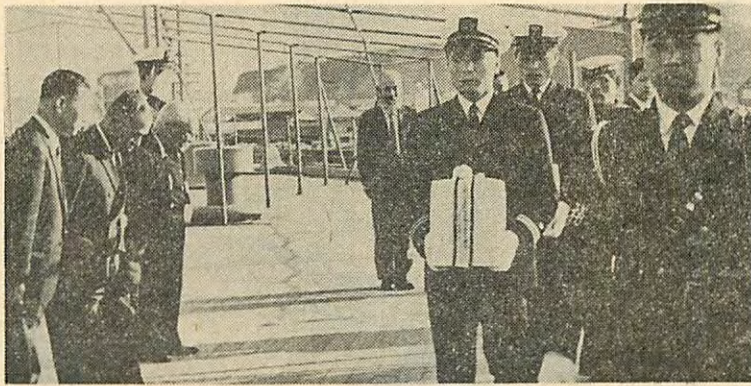
この時以来、未だ曾つて会つたこともない大勢が玉砕の島の遺族という縁に結ばれることになった。残された者たちは、生きることだけが精一杯の歳月に耐えた。もしかしたら………という秘かな願いは夢となつて、征つた人は遂に還らなかつた。

遺族会の結成

37年2月6日、例年のように靖国神社の永代神楽祭に参列した遺族たちは、お互がクエゼリン島、ルオット島やその附近で肉親を失つた者同志であることを知つて親しみを感じ、話題は戦死者のことからお互の家族に及び、時の経つのを忘れた。人間のあたたかさを肌感じた思いであつた。

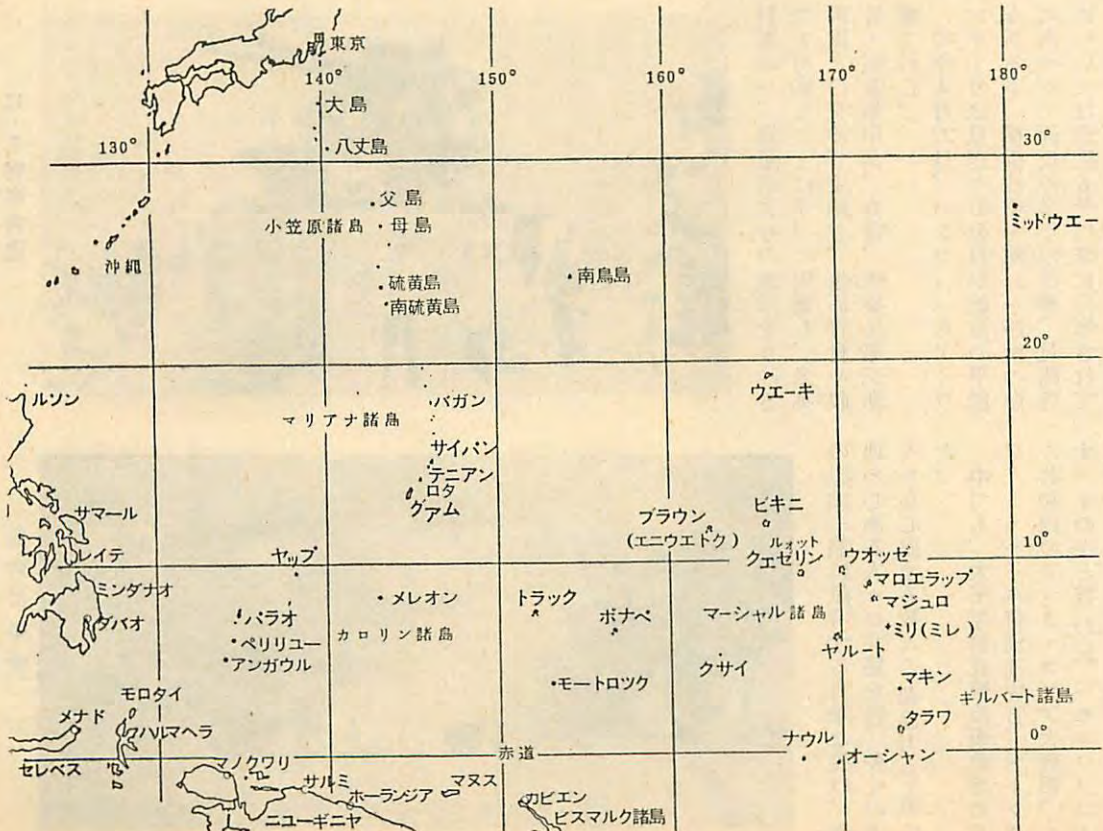


二十年祭(39・2・6)
 向って右から
 林 会 長
 朝 香 名 誉 会 長
 石 橋 梅 子 様
 松 平 永 芳 様



靈砂帰還(40・10・9)
 記念艦三笠艦上

38年2月6日、永代祭のあとの懇談会で「遺骨収集や現地慰霊を政府がやらないならば我々遺族でやろうではないか」との林 茂清氏の一言が、遺族会結成の口火となり、この日から林さんの女婿浮田現会長の超人的な奉仕作業が始った。戦死者とその遺族の調査、原簿作成という大仕事と創立総会開催までの段取りを、僅か四ヶ月の間



に殆ど一人でやりとげたのであった。
38年6月29日に創立総会を開催して
会の方針を決定し、二十年祭の準備に
かかった。

二十年祭

39年2月5日は前日祭、6日には当
日祭、何れも八百名の会員、篤志家が
集って感激の祭儀を行った。肉親が何
時何所でどんな状況の下で戦死したか
を知らなかった遺族たちが、始めて事
の真相を聞き、同じ境遇の仲間たちが
沢山居たことをお互の目で確かめ合う
ことができたのである。

伝え聞いて翌年はルオット、ブラウ
ンの遺族たちが加ってきた。

靈砂帰還

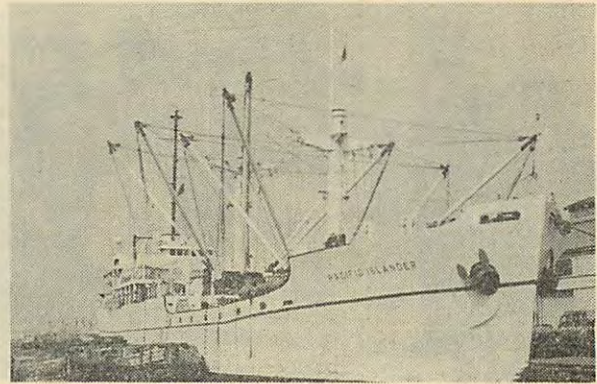
遺骨、遺品が無理ならばせめて玉碎
島の砂なりともという切な願いが、土
屋太郎氏(本会篤志会員)と親交のあ
ったウィリアム氏とその友人スワン
パーク氏によって叶えられた。クエゼ
リン、ルオット、ウオッセの砂を採集
し、わが護衛艦「あまつかぜ」に托送
して下さったのである。菊池同艦々長
は、之を士官室に奉安し、40年10月9
日横須賀に帰港された。

記念艦三笠艦上での引渡式は、海上
自衛隊の御取計により、護国の英靈
をお迎えするに相応しく莊厳丁重を極
め参列した遺族は齊しく感激した。

菊池艦長から、厚生省の村岡課長

現地派遣員出発(42・4・22)

パンフィックアイランド号



(本会篤志会員)に引渡された靈砂は
同日中に厚生省内の靈安室に安置さ
れ、10月15日に林本会会長が受領して
希望する会員にお頒けした。

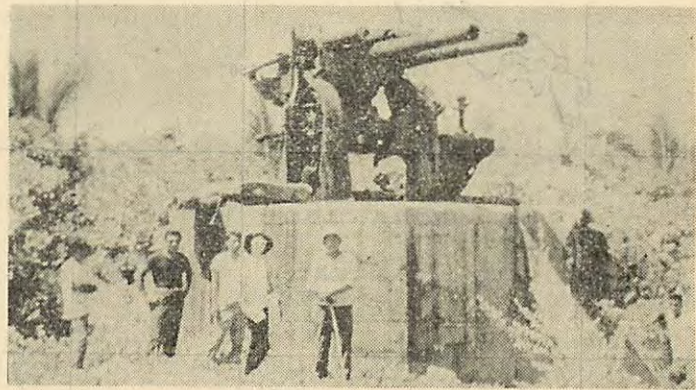
現地調査・遺骨収集・現地慰霊

現地事情の解明は会の今後の活動の
基本なので環礁を通じて参加者を募っ
たが半歳間という長旅の故か、会員か
らの希望者がなかったため、本部役員
の浮田常任幹事と佐竹幹事の両名を派
遣することになった。

事前調査は入念周到に行われた。各
島の戦史、地図、海図、水路誌等の資

ヤルト島に残る

12・7 輝高角砲



料集めや、帰還者よりの教示をうける
など可能なことはすべて実施し、米英
両国との交渉、手続き、生活資材や収
骨・慰霊祭用具、食糧、医薬品等が準
備された。

42年4月22日、パンフィックアイラ
ンダー号は見送りの会員が航海の平穩
を祈る中、横浜棧橋を離れ一路南の海
に向った。両氏の半年の行動、見聞等
については環礁6号以降に詳報されて
いるが、「只一誠あり一私なし」英靈

収集した遺骨と靈砂を
船内に奉安



の慰霊一筋に献身する真摯な姿は、現
地の心ある人々の共感を得、多くの方
々から心温まる数々の御協力を頂い
た。

中でも、太平洋信託統治領政府のド
ワイト・ハイン特別補佐官、マーシャ
ル共和国のアマタ・カブア大統領、ル
オットの主と言われたセルフイニー
氏、マジエロの山村 要氏、ナウルの



↑ 慰霊碑清祓式に参列の会員一同
白金迎賓館(43・8・17)

ジョン・ウイルス氏など要路の方々と浮田会長の親交は現在も続いている。42年10月19日、両氏は重責を完全に果し、元気で横浜港に帰港した。その全航程一万九百哩、一八二日間のうち船上生活は一三二日に及んだ由。

両氏の調査により各島の現状もわかり人間関係もでき、懸案の現地慰霊団派遣の希望も出てきた。

クエゼリンに慰霊碑建立

クエゼリンの島に慰霊碑をぐとの創立以来の念願は、42年3月24日に現実のものになった。米軍から建立が許可され

たのである。クエゼリンの軍司令官や、米本国の当局者との折衝は浮田常任幹事の粘り強さが功を奏したものと見える。

役員二名の現地派遣と慰霊碑建立という大仕事を連続して実施できた財政力は偏に会の総力結集の成果であった。

村上副会長や石橋顧問夫人を煩わし、政府や都道府県知事に協力をお願いした。又、林会長から全会員に寄附のお願い文を出して頂いたが、会員の反応は非常なもので、会員の期待の大きさがひしひしと感じられた。

碑の設計、製作は関係者の奉仕によって順調に進行した。碑の正面に各都道府県の銘石を嵌込む。而も知事の揮

毫を頂いて彫込む、という手のこんだ作業も連絡に当った会員のお骨折により、予定どおり進行した。

碑の中に収納された霊壺簿(三万余柱の戦歿英霊の氏名簿冊)は、浮田夫人が一字一字心をこめて謹書され、会員から寄せられた霊壺と共に、特製のステンレス製の永久容器に納められた。

43年8月17日、白金の迎賓館(元朝香宮家邸)で碑の清祓式が執行された。見事に完成した碑を真近かにして会員の顔は皆晴ればれとしていた。次の望みはクエゼリンでこの碑に対することである。

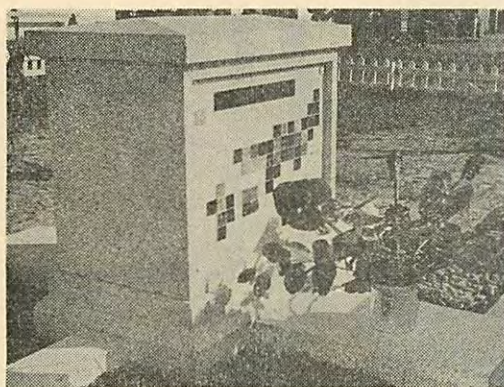
丁重に梱包された碑は、パシフィッククアイルランダー号で10月29日クエゼリン入港、ミラー司令官の好意あるお取計いや、徳原徳子さん(篤志会員)、チェンバレン和子さん、中田さんその他大ぜいの方々の協力と奉仕によって仕様書通りの建立作業を完了した。

12月1日、牧師のお祈りで除幕式、慰霊祭が、島の方々大勢によって行われた。盛花はホルルルから航空便で取りよせられたという。

マーションル慰霊団(第一回)

クエゼリン島は、米国にとってミサイル戦略上の最重要機密の地であり、米国人にも厳重な入域管制が敷かれているが、本会に対し50年6月9日附の公文書で墓参のための入域が許可された。法人格のない本会が、米国に認知されたのである。

慰霊碑の表面



慰霊碑の裏面



マーシャル慰霊第一回 (50・8・15)

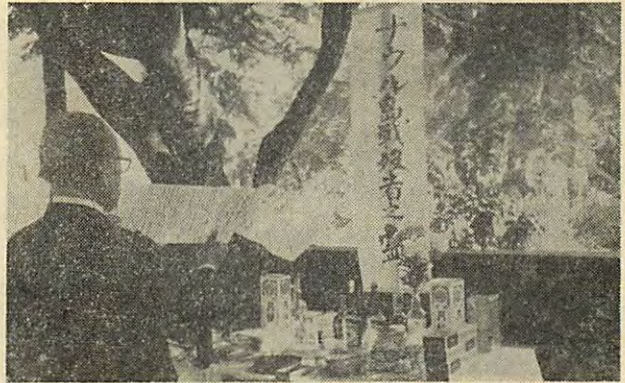


50年8月10日、初めてのマーシャル諸島慰霊団一行36名は羽田発、ホノルルを経て12日にマジユロに着いた。島の方々が大勢出迎えて全員にレイをかけて下さった。その夜は全員が夕食会に招かれた。楽しいパーティーであった。

8月14日、希望者8名は小型機をチャーターしてマロエラップ環礁タロア島に飛び、激戦の跡を巡り、戦歿英霊に祈りを捧げた。夜は昨夜のお返しに野外パーティーを催し、島の皆様からあの椰子の島々の歌を習った。

8月15日、夢にまで見たクエゼリンの墓地は、青く、広く、清浄であった。語りかける者、お経をあげる者、酒

ナウル慰霊 (52・8・12)



や故郷から持参した水を供える者、時は容赦なく過ぎる。後ろ髪引かれる思いでお別れをした。

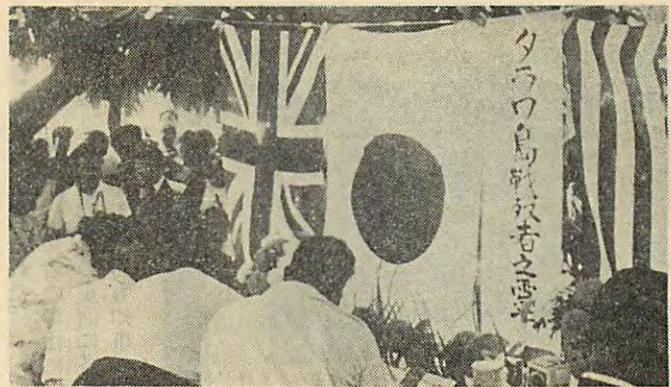
ギルバート慰霊団 (第一回)

52年8月9日、一行25名は成田発、グアム経由、11日にナウルに着き、翌12日に外国人墓地で慰霊祭を行った。当地で軍医長をしておられた土岐正氏の明暗流尺八の阿字観の吹奏は切々として泉下に滲み入る感があった。

13日ナウル班と分離してタラワ着。

14日ベシオ戦蹟巡視のあと、庁舎倉庫に散乱していた遺骨数十体を木箱に収め、水と花を供え焼香した。

ギルバート慰霊第一回 (52・8・11)

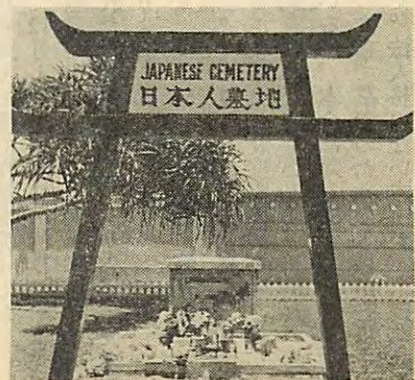


この遺骨は、前年(51年)この島を訪れた田中、柴崎幹事外一行が11月26日にこの場所で見えたものである。一見して日本人以外のものも混っているの。この島の習慣によりこの島に埋葬して頂くことがよいと衆議一決した。

15日ジョン・スミス総督を訪問し、明日の慰霊祭出席の要請と、遺骨の処理法について陳情した。(註)

(註) 10月5日附でジョン・スミス総督から浮田会長宛来信「9月23日(金)に、日本神社のあった所でハイ教の指導者主催により埋葬式を行った」

マーシャル慰霊第二回 (53・9・1)



16日ベシオ島の慰霊公園で慰霊祭を行う。スミス総督夫妻、議員、市長外官民大勢の参拝を頂く。終って直会の野外パーティーを催した。

マーシャル慰霊団 (第二回)

53年8月28日靖国神社に集合した35名は成田泊。29日朝成田を発ってその夜マジユロに着いた。12時を大分過ぎたのに大勢でレイを持つての出迎えに感激した。30日の夜は歓迎パーティーに招かれ、31日はお返し親善パーティー。9月1日はクエゼリン墓地にお参りできて感謝の思いを新たにす。

9月2日 サイパンで、ドワイト・ハインズさん御夫妻と昼食を共にした。

マーシャル慰霊団 (第三回)

55年7月31日午前9時30分成田を発った一行8名は、深夜クエゼリン空港に着き出迎えの皆様に案内されてクエゼリンロッジに入った。

ウイッテリー司令官の御好意によって始めてロッヂに宿泊が許可されたのである。

在島三日の間、何度もお詣りでき、島の皆様にVIP並みの歓待を頂いた感激は一入であった。浮田会長の永年の努力が開花したものである。

マーシャル慰霊団 (第四回)

56年8月21日一行15名は成田発、グアム泊、マジュロ泊の後クエゼリンに着いた。前回同様ロッヂに宿泊させて頂き、心ゆくまで静かにお詣りすることができた。秋葉山丸の沈んで



マーシャル慰霊 (55・8・2)

いる真上で船上慰霊をしたこと、あきらめていたルオット墓参の叶えられたこと、一行中に飯島導師の居られたこと等、恵まれた慰霊の旅であった。

ルオットの日本人戦歿者慰霊碑は、米陸軍大佐F・H・セルフイニー氏が独力で建て、自ら清掃されたと聞く。

ギルバート慰霊団 (第二回)

56年8月25日一行6名は成田発、グアム2泊、ナウル2泊、タラワ6泊、9月4日成田帰着。タラワに着いて、会長から依頼された遺骨(52年8月に会長がスマス総督に埋葬を依頼したものの)の処理法、場所等を探ねたところ未だ政府の倉庫にあることがわかった。



マーシャル慰霊 (56・8・26)

埋葬をお願いしたところ、ベシオ政庁のシャオンさんは、明日慰霊公園に埋葬しますとのこと。

8月29日(土)掘って下さった穴に遺骨を納め、皆でシャベルで土をかけた。何処の誰のものかわからないお骨自分の肉親のお骨かも知れないお骨。お供へものをし、香をたき、お経をあげ、詩を吟じ、御冥福を祈った。シャオンさんたちも加って下さった。墓碑を送ってくれたら建ててあげるとの申入れがあった。

ギルバートに慰霊碑建立

ギルバート関係遺族は建碑を定め本会に協力を求めた。会長からキリバス大統領に申請したところ、希望事項をすべて受入れて承認され、着工、清祓式、船積みと、順調に経過し、一年経たぬうちに玉砕の島ベシオ島で除幕式



ルオット慰霊 (56・8・26)

の運びとなった。

ギルバート慰霊団 (第三回)

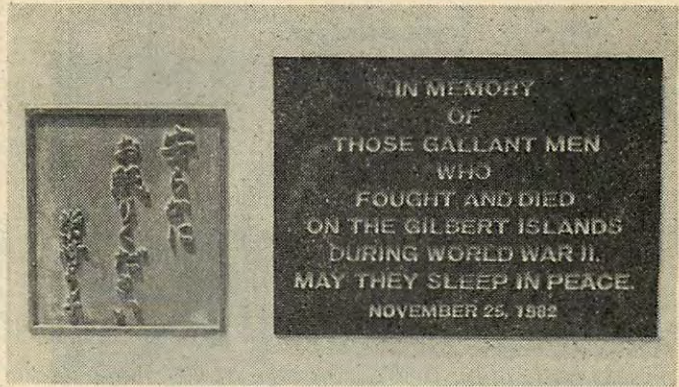
57年11月21日、一行35名は成田を発って、22日タラワ到着、タバイ大統領閣下に御礼を申し上げた。23日、慰霊公園の慰霊碑「南瀛(ナンエイ)之碑」の周辺は、ベシオ町の皆様によって清掃され、日・キ両国の国旗が掲揚された。

除幕式には、キリバス国会議長、各省大臣、議員外多数の来賓があり総勢



ギルバート慰霊碑表面

ギルバート慰霊碑裏面



90名を超える盛況であった。追悼の詞につづぎ、全員が献花、礼拝し慰霊の式を終え、マニアバに席を移して直会となった。町の提供による百人の民族舞踊は壮観であった。

政府による慰霊碑建立

本会の永年の要望であったマーシャル、ギルバート戦歿者の慰霊碑建立が政府によって実現されることになったのは、遅かったとは言いつら殉国の英霊も定めし御感応のことと拝せられるのである。

(佐藤宗丕)

環礁

談話室

こんにちはわ／＼ おげんきですか／＼

- ① 自己紹介、家族の状況
- ② 心に残る想い出
- ③ これからしたいこと
- ④ 会に対する要望
- ⑤ その他何なりと

(タラワ)

柴崎

晃

(50歳)

①父恵次、昭和18年11月25日ギルバート諸島タラワ島にて戦死。私は三菱重工(名古屋)に勤務、神戸市に妻陽子(46歳)、長女章子(21歳学生)、次女晶子(19歳学生)の家族3人を残し単身赴任中。家族一同恙無く暮して居ります。母よし子は昭和56年12月6日病歿(行年81歳)実姉楠和子(53歳)は神戸市内拙宅の近くに在住。

②心に残る思い出は、やはり……、昭和51年11月にタラワ訪島慰霊団に参加しナウル航空の機内窓から遺族の方々と一緒に初めてあの美しいタラワ島を見た時で、濃紺の大海原の一角に実に鮮やかなトルコブルーの海が浮き立ちその中に逆L型のタラワ環礁……その美しい情景はしっかりと胸の奥に焼きついていつまでも消えません。そして

昨年11月には、遺族念願の、南灘の碑々がタラワ島に完成し佐藤副会長様はじめ遺族の方々と共に再度訪島、キリバス共和国政府関係者及び多数の島の歓迎を受けて盛大に現地慰霊祭を

開催出来ましたことは生涯の思い出となりました。

④私も例外ではありませんが、戦後の遺族はそのほとんどが大変な苦労を重ねてこられたことと思います。そして病弱、老齢、その他種々の事情で現在もお困りの方が居られると思います。この遺族会が、今後とも遺族皆さんの親睦、意見交流、はげましの話合いの場を設けて下さり、この環礁談話室がその交流のための一助となつて遺族会発展への方向づけの役目をはたしてくればと願つて居ります。

マーシャル諸島とギルバート諸島に立派な慰霊碑が完成した現在、事情許す限り出来るだけ多くの遺族の方々が訪島し私共遺族の手で作つたこれら慰霊碑を参拝され、英霊と語り故人を偲ぶひとときを過ごされるよう是非おすすぬめ致したい。そして遺族会に於かれ

ても、遺族皆さんの親睦と慰霊碑の巡拝、維持等のため今後とも御活躍頂くよう願つて止みません。

(神戸市中央区神仙寺通)

4-3-11-407)

(ルオット) 内山 浅子 (61歳)

①六月以来、主人が体調をくずしまして、終日まごまごして居りましたが、九月も末になってしまいました。御蔭様で昨今快方に向つて参りましたので御休心下さいませ。父が戦死いたしました時は娘でした私も、四人の孫のオバアチャンになって、毎日張り切つて元気

に過ごして居ります。
②亡き両親の思い出になります。昭和五十五年の夏、会長様はじめ役員の方々の御尽力によって、クエゼリンへのお参りが、かないました。島の土を踏みました時の感激、万感胸にこみあげて参りました。島での三日間は、毎日慰霊碑に参拝、大里様はじめ皆様の心温まる御親切も、一生忘れられない思い出で御座います。

③孫達の事も大分離れました。家事の雑用はありますが、私で出来ますことでしたら、仰有(おっしゃって)つて下さいませ。(今度は、夫と子どもを連れて、ルオットへおまいりに行きたいです)

④世代が順々に変わっていきませんが、末長くつづけて頂き度いと思ひます。
⑤会長様はじめ、役員の方々には、いろいろと御世話様になって感謝申し上げます。どうぞ皆様御健康で御過ごして下さいように。

(藤沢市藤沢四一六一〇)

(ルオット) 堂 東 義 雄

(54歳)

拜啓 この度環礁のお便り下され有難うございました。去る四月八日父堂東秀が亡くなり、長らくお便りもしないで申訳ありませんでした。

これからは、弟の堂東義雄がお附合をさせて頂きますので、宜しくお願ひ申し上げます。

同封のお金些少ではございますが、お取め下さい。

(福井県大野市中野四〇一五六)

(マロエラップ) 渋 谷 セキノ

(68歳)

①脳軟化症により左片麻痺、リハビリに依り現在日常生活には不自由はありません。

息子夫婦に中学生を頭に男三人。

②何んと言っても、私の生涯に残る思い出は、会主催の第一回現地墓参団に参加。クエゼリン、マロエラップに慰霊に行つて来たことです。

③健康なうちに、今一度現地墓参に行き、慰霊して来たいと思いますが、会主催の墓参は当分ないでしょうか。

(新潟県見附市細越二一十一)

(クエゼリン) 沖 立 キヨ

(74歳)

①現在は、かかりつけの病院で周期的に検査をしながら医師に薬をいただき、健康管理に気をつけて居ります。

家族は、長男夫婦に孫三人、嫁は現在勤めに出て居ります。

②弟が最後に出て行った時の事です。前日、帰つて来て熱を出し、一晩中看病して、明方出て行つたきりです。最後の姿が心に今に残ります。

③私は幸いにお花とお茶の道があります。毎日忙しく過ごして居ります。これからも続けて行くつもりです。

④別にあります。いつもお世話になり感謝して居ります。

⑤別にございません。よろしくお願ひ致します。

(横浜市港北区菊名六一一九一二七)

(クエゼリン) 堀 家 かつ江

(75歳)

昭和三十九年二月六日の二十年祭に出席したときは五十六歳の私でした。

十七年間勤続の公務員生活を定年退職してその動揺の余りにも大きな心境の中に、式場で頂いた環礁の内容は更に私の人生の転機に大きな輪を拡げ、追ひこまれた私の心にはただ亡夫への思慕のみが溢れていたのです。そのとき初めてとり戻した人間性が、私の第二の人生の出発点となりました。

それは宗教的に生きることにの亡夫の指示でありました。

昭和四十九年の三十年祭は六十六歳でした。現在では古稀をすぎること五年という老人になりました。やがて亡夫の許へ召される日も近くなって来ました。亡夫の玉碎の精神を思うとき私はどの様に生きてどの様に死すべきかを考えます。一日一日を生かされていく感謝の中にささやかな奉仕はともて楽しい生甲斐でございます。

明年の四十年祭の昇殿参拝には又、何かとお世話になります。よろしくお願ひ申し上げます。

拙ない一文を恥をしのんで認めました。

(二57 東大阪市小阪一十一番 合掌 三一五二一)

(クエゼリン) 寺 島 きよ

(80歳)

談話室が開設されました、ほんとう嬉しく、心から感謝申し上げます。

①上等水兵、寺島一雄の母、昨年七月白内症にて両眼手術す、健康も徐々に快復しつつ有り、然し月に一回乃至二回富山へ通院です。家族は次男夫婦と二人の孫娘で、長女はかの子、次女はゆり子(孫娘)。市の名花が去年かのこゆりと決定致しました。不思議な事に、我が家の孫娘姉妹を合せた名前です。市の名花と共に進んでいくようにと願う祖母の気持です。

②満十七歳の四月に志願し、五月初旬に入団の運びとなり、血気にはやり御国の為と大変張切っていましたところ

が、入団が急に変更(多分二ヶ月程)、遅れる知らせに、ガツクリとした姿は今以って忘れられません。それが最初の五月に入団復活の令状に勇躍した喜びは、天にも上ったような気持、只管

(ひたすら) 御国と陛下の為と思ひ込んだ心意気が臉に映じ悲しみに沈む我が身を励ましてくれたのです。日頃会社への出勤前と帰宅した時は必ず神仏にお祈りする日々でした。長男(一雄)の導きとでも申しませうか、合掌出来得る此の頃の私です。負うた子に教へられる、とはこの事で御座います。

③何分にも老齢の身なれば環礁の御一同様に巡り逢えぬのが残念です。

④いつも乍ら、親身のお世話を蒙っておりまして厚く厚く深謝しております。一日も早く靖国神社の国家護持を切望するのです。

⑤次に記します件は、別に環礁とは無関係で御座いますが、談話室に甘えまして書いた次第です。私の夫の件で御免なさい。夫が38歳で応召、当時幼児三人あり支那事変に出征し戦勝して帰還致し、恩賞として当時参百円の国債を戴きましたが、31年の魚津の大火災で、親類の手伝いをしてる中に、風向きが變つて家財と共に国債も灰と化しました。

何かしら無我夢中で過ごす内、氣付いて遺族の世話係のお方に御願ひ致しましたが、証書が無くては駄目との事でした。お金に執着しては居る訳では御座いませんが、事情が右の次第で何となく納得出来ず、自ずと胸を打明けホッと致しました。

(千937 魚津市北鬼江一六八一六)

マ ー シ ャ ル 方 面 遺 族 会 年 表

(昭和18・11・25と昭和58・10・31)

年月日	こ と が ら	(環礁号一頁)
18・11・25	タラワ島及びマキン島守備隊全員玉砕	(9-10)
19・2・6	クエゼリン及びブルオット島守備隊全員玉砕	(1-4・6)
20・8・15	大東亜戦争終る	
21・2・19	※天皇陛下神奈川県下へ行幸(戦後初めて。以後全国各地を御巡幸される)	
21・7・1	※NHK「尋ね人」放送開始(37・3・31迄)	
23・1・1	※二重橋開放、一般参賀許可	
11・12	※極東軍事裁判判決	
25・6・25	※朝鮮戦争始まる	
11・3	※「君が代」復活	
26・9・8	※対日講和条約及び日米安全保障条約調印	
27・4・18	※靖国神社の春の例大祭復活	
4・30	※戦傷病者戦没者遺族等援護法公布	
5・2	※全国戦没者追悼式が、天皇・皇后両陛下御臨席のもと新宿御苑で催された	
28・1・31	※厚生省は、太平洋南方八島戦没者の遺骨収集団を派遣した。マーンシャル及びギルバート地域は現地政府の了承が得られず除外され、クエゼリンの北西遙か七〇〇哩(東京から奄美大島までの距離)の遠くで洋上慰霊祭を行った (3-2)	
7・27	※朝鮮戦争休戦協定調印	
30・10・1	※新潟大火	
31・12・19	※国連総会日本加盟を承認	
34・3・28	※千鳥ヶ淵戦没者墓苑竣工式並びに追悼式。天皇・皇后両陛下御参拝	
4・10	※皇太子殿下御成婚式	
9・25	※伊勢湾台風	

年月日	こ と が ら	(環礁号一頁)
38・2・6	靖国神社永代神楽祭の後クエゼリン島遺族の懇談会。林 茂清氏から遺族会の結成が提唱され全員が同意し、設立準備作業を開始した。戦没者とその遺族の調査、原簿作成は専ら浮田信家氏が奉仕した	(10-3)
6・29	設立の準備整い、丸の内の日本倶楽部で発起人会を開催。全員の同意で創立総会に切替えてクエゼリン島戦没者遺族会を設立し、初代会長に林 茂清氏が就任した	(4-10)
8・15	※全国戦没者追悼式が天皇・皇后両陛下御臨席のもと、日比谷公会堂で挙行された(以後恒例となり毎年継続。場所は39年は靖国神社、40年以降は日本武道館)	
11・22	※ケネディ大統領暗殺される	
39・2・6	靖国神社に於て二十年祭を執行、参加者八百名。終って希望者二五〇名皇居拝観	(1-2)
6・16	※新潟地方大地震	
10・10	※第18回オリンピック東京大会開催(10・24閉会)	
12・25	戦没者の郵便貯金が遺族の手に返される	(1-11)
40・1・1	会報「環礁」創刊	
2・6	第2回慰霊祭、第1回総会。ルオット島、ブラウン島の遺族の加入により、会名をクエゼリン方面戦没者遺族会と改称	(2-8)
7・13	靖国神社みたま祭に大形献灯。以後毎年継続 (2-1-4)	
10・9	海上自衛隊の護衛艦あまつかぜで、クエゼリン島、ルオット島及びウオッセ島の霊砂が帰還。記念艦三笠で厚生省に引渡された(3-1)後、本会が受領し会員にお頒けした(3-3)	
41・2・6	第3回慰霊祭、第2回総会。古賀副会長退任され顧問に就任。村上義一氏副会長に就任	(4-11)

年月日

こと ぐら

(環礁号一頁)

41・5・25 ウオッセ等及びギルバート諸島の遺族の加入により会名をマーシャル方面遺族会と改称。現地に慰霊碑を建立することを計画

42・2・6 第4回慰霊祭、第3回総会

3・24 クエゼリン島に慰霊碑建立が承認される

4・22 浮田常任幹事と佐竹幹事は現地事情調査、収骨、慰霊の為パシフィックアイランダー号で横浜出港 (6-1・4・6)

9・26 林会長が靖国神社御創建百年奉祝奉賛会理事に委嘱される

(7-3)

10・19 浮田、佐竹両派遣員大任を果して帰着

(7-2) (4)

11・19 品川区浅間台小学校で現地事情報告会

(7-4) (12)

43・2・6 第5回慰霊祭、第4回総会。今年から会費を集めることとし、年額を五百円とする

(8-8)

5・16 ※十勝沖地震

5・25 (26) 京都市で慰霊祭及び現地事情報告会

(8-10)

6・9 慰霊碑の製作開始

(8-12)

8・17 慰霊碑完成、白金迎賓館で清祓式挙行

(9-11) (7)

9・13 慰霊碑横浜港発

(9-7)

9・15 加藤副会長逝去

(9-7)

10・29 慰霊碑クエゼリン島着、建立作業開始

(9-7)

11・19 右建立作業完了

(9-7)

12・1 慰霊碑の除幕式が現地の有志により厳粛に挙行された

(9-7)

44・2・6 第6回慰霊祭、第5回総会。林会長退任、村上副会長に就任

(10-12)

3・1 浮田常任幹事副会長に就任

(10-10)

4・28 林前会長逝去 88歳

(10-3)

7・20 ※米国のアポロ11号人類初の月面着陸に成功、25日帰還

(12-12)

45・2・6 第7回慰霊祭、第6回総会。希望者による第一回直会旅行・修善寺方面

年月日

こと ぐら

(環礁号一頁)

45・3・14 ※万国博覧会開会 大阪 (9月13日閉会)

46・2・6 第8回慰霊祭、第7回総会。第2回直会旅行・三浦半島方面

(14-11)

6・17 ※沖繩返還協定調印

8・9 石橋顧問夫人梅子様逝去 82歳

9・28 ※厚生省義村事務官外一名ギルバート諸島遺骨収集に出発 (10月26日帰着)

(15-9)

10・30 ※厚生省千葉事務官外一名マーシャル方面遺骨収集に出発 (12月1日帰着)

(16-4)

47・2・6 第9回慰霊祭、第8回総会。第3回直会旅行・房総鴨川方面

(16-9)

2・19 ※連合赤軍浅間山荘事件

48・2・6 第10回慰霊祭、第9回総会。第4回直会旅行・伊東方面

(18-5) (8)

4・25 石橋顧問逝去 88歳

9・20 役員会で、会旗とバッヂの作成を決定

10・6 ※第4次中東戦争、オイルショック

10・11 ※厚生省の中部太平洋遺骨収集派遣団出発、本会より浮田会長参加、12月14日帰着

(20-1) (2) (3)

49・1・20 村上会長逝去 88歳

2・6 三十年祭執行、第10回総会。靖国神社にクエゼリン島慰霊碑の副碑を奉納、宝物遺品館に安置された

(21-12)

浮田副会長に就任。佐藤常任幹事副会長に就任。会費の年額を一千円と改訂

(19-5) (21-3)

5・9 ※伊豆半島沖地震

50・1・1 第5回直会旅行・箱根湯本方面

2・6 環礁に戦記シリーズ掲載を始める

第12回慰霊祭、第11回総会。第6回直会旅行・川治日光方面

(23-6)

環 礁

年月日	こと が ら	(環礁号一頁)
50・7・20	※沖縄海洋博開会(51年1月18日閉会)	
8・10	第1回マーシャル方面慰霊団36名出発。ハワイ、マジュロ、クエゼリン、8月16日帰着	(24―1―19)
51・1・31	※日本に初めて五ツ子誕生	
2・6	第13回慰霊祭、第12回総会。第7回直会旅行・下田方面	(25―7)
9・6	※ソ連ミグ戦闘機函館に強行着陸	
52・2・16	第14回慰霊祭、第13回総会。会費を年額二千円と改訂。第8回直会旅行・甲府石和方面	(27―7)
3・1	古賀顧問逝去 90歳	(27―3)
8・9	第1回ギルバート方面慰霊団25名出発。グワム、ナウル、タラワ8・21帰着	(28―1―13)
9・3	※王選手七五六ホーマー	
53・2・6	第15回慰霊祭、第14回総会。第9回直会旅行・霞浦筑波方面	(29―4)
8・28	現地慰霊団35名出発。サイパン、マジュロ、クエゼリン、サイパン(9月2日帰着)	(30―2)
11・12	※政府派遣慰霊巡拝団出発。マーシャル班21名、ギルバート班18名、11月22日帰着	(30―13)
54・2・6	第16回慰霊祭、第15回総会。第10回直会旅行・伊東中伊豆方面	(31―1)
3・8	※政府派遣ブラウン環礁(エニウエタツク環礁)調査団出発、本会より浮田会長参加、3月20日帰着	(31―4)
8・12	マジュロ島よりお客様来日	(32―2)
11・26	マーシャル諸島に高波。12月3日にも	(33―8)
55・2・6	第17回慰霊祭、第16回総会。第11回直会旅行・館山寺方面	(33―1)
7・31	現地慰霊団8名出発。サイパン、グワム、トラック、ポナペ、クエゼリン。8月3日帰着	(34―2―7)
56・2・6	第18回慰霊祭、第17回総会。橋口常任幹事副会長に就任。第12	

年月日	こと が ら	(環礁号一頁)
56・4・12	回直会旅行・三保清水方面	(35―2)
8・21	朝香名譽会長逝去 93歳	(35―4)
8・23	現地慰霊団マーシャル班15名出発、28日帰着	(36―2)
8・25	同右ナウル班1名出発、28日帰着	(36―2)
10・4	同右ギルバート班6名出発、9月4日帰着	(36―2)
57・1・10	ギルバート関係会員はタラワに慰霊碑建立を計画、本会は之に協力することとした	(36―16)
2・6	三ツ木幹事副会長に就任	(37―4)
7・25	第19回慰霊祭、第18回総会。第13回直会旅行・伊香保方面	(37―4)
8・15	ギルバート諸島戦歿者慰霊碑(南瀛之碑)が完成、靖国神社で本会に引渡され、清祓式を挙行	(38―8)
9・28	※政府はこの日を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」と定める	
11・21	※政府派遣マーシャル諸島慰霊団15名出発。ヤルト、ミリ、マロエラップ、ウオッセ、クエゼリン、10月8日帰着	(38―7)
11・23	ギルバート諸島慰霊団35名出発、22日タラワ着	(38―1)
58・2・6	同右ベシオ島慰霊公園で慰霊碑の除幕式及び慰霊祭を執行。御協力を頂いた来賓と共に直会を行う。27日帰着	(38―2)
9・9	第20回慰霊祭、第19回総会。政府に対し、マーシャル諸島、ギルバート諸島、ナウル、オーシャン及びその隣接海域での戦歿者慰霊施設を設置するよう要請することを決議	(39―2)
10・3	第14回直会旅行・南房州方面	(39―2)
	※政府による「東太平洋戦没者の碑」建設始まる(59年3月完成の予定)	
	※三宅島噴火	

会則改正について

会長 浮田 信家

本会は創立後二十年を経て会則の中に実情に合わなくなつたところができてきましたので59年2月6日の総会でその一部を改正したいと思ひます。

役員会で検討した改正案を次に掲記しますので御意見のある方は、十二月末日までにはがきでお知らせ下さい。本会の現行会則は環礁13号(46年1月1日発行)の2頁にあります。

会則改正案

1. 第三条に、次を加えます。
2 前項に該当する者は第十条の会費を納入することにより、この会則に定める会員の権利を行使することが出来ます。
2. 第五条を次の通り改めます。
第五条(活動) この会は、次の活動をします。
一、毎年二月六日に靖国神社において慰霊の祭典を行います。
二、第三条に示す諸島に残された遺骨の収集につとめます。
三、現地に建立した慰霊碑の維持管理をはかります。
四、会員の相互扶助および親睦をはかります。
五、その他この会の目的達成に必要なこと。
3. 第七条中第一項と第二項を次の通

り改めます。

第七条(役員の種別、職務および給与) この会に次の役員をおきま

- 一、会長 一名
 - 二、副会長 若干名
 - 三、常任幹事 三名以内
 - 四、幹事 若干名
 - 五、監事 三名以内
- 2 会長は、この会を代表し、会務を総理します。

4. 第八条第一項中の名誉会長を削除します。

5. 第九条を次の通り改めます。

第九条(名誉会長、顧問、相談役および篤志会員) この会に、役員会の決定により名誉会長、顧問、相談役および篤志会員をおくことが出来ます。

6. 第十条本文中の「経理」を「経費」と改めます。

7. 第十六条を次の通り改めます。

第十六条(会則の改廃および解散) この会則の改廃および解散は総会で定めます。

2 解散の際保有する資産は靖国神社に奉納します。但し総会の決議により、一部をこの会の目的に副

う事業に寄附することが出来ます。

8. 第十七条を削除します。

9. 附則 この会則は昭和五十九年二月六日から施行します。

本会の今後のあり方について

会長 浮田 信家

57年末以来一部役員から次のような早期解散案が提出されました。

一、本会は発足の際計画した活動目標はすべて完了した。又戦死者に近い遺族は次第に減少するのみである。

二、財政の面からも先行き不安である

三、政府がやってくれないので本会がクエゼリン島とタラワ島に慰霊碑を建立した。漸く政府もマジエロ島に慰霊碑を建立することになった。

四、浮田会長は年齢の關係上昭和六十年以後は会長を引受けないと言われた。

五、以上のような状況からこの際本会発足二十周年の節目を機として区切りをつけ解散してはどうか。

右の提案は誠に重大なので四回に亘つて役員会を開き、問題点を徹底的に説明し慎重に審議した結果次の結論に達しました。

一、現在、本会を解散しなければならぬ理由は見当らない。

二、海外に建設した慰霊碑は本会が保護しなくてはならない。

三、多くの会員は、心のよりどころとして本会の存続を希望しているものと思われる。

四、状況によって活動の一部を縮小するとしても当分解散は考えず、会を続けてゆくこととする。

右のとおり決定しましたが、本会を何時迄も続けてゆくことは容易なことではありません。大勢の会員のたゆみない御協力が絶対に必要です。

本会の存続を希望される皆様の今後の御協力を切におねがいたします。

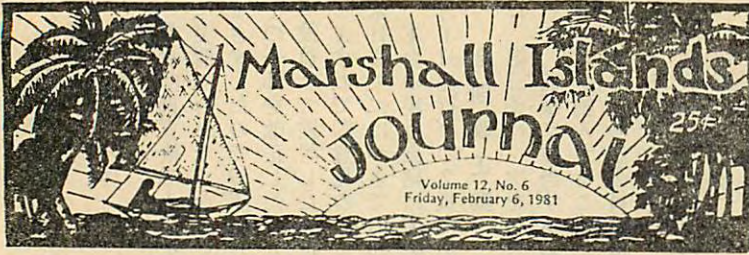
雑感

(ルオット) 井上 賀雄

覆郁たる海の薫りと共に2月6日が巡ってくる。毎年靖国神社で行われる慰霊祭に、全国各地から多くの方々が参集し、お互に元氣にお逢い出来ることは誠に有難いことであります。

あの南洋の珊瑚環礁で、わが戦士が玉碎、華と散つて既に40年。戦後の混乱から立ち直り、この様に平和で豊かな日本になつたのも、英霊の加護のお蔭と、改めて往時が偲ばれます。

会の役員の皆様のご奉仕、ご協力による諸行事の運営、環礁の発行、現地慰霊、会計処理等、本当に有難い限りです。特に浮田会長、佐藤副会長等の余人の為し得ぬご努力のお蔭で、当会は、美中の美とも賞され、私達遺族にとつても心の拠り所となっております。当会益々の発展と共に、関係皆様のご健勝を念願して止みません。



マーシャル諸島情報
 マーシャル・アイランズ・
 ジャーナル紙より

☆9月13日号より

サン・ホテル開店

マジユロ発9月13日

室数35のマジユロの新しいホテル、サン・ホテルがこの10月にオープンする。スイートルームも5室ある。

日本のミニ建設が施工を担当している。オーナーはテルオ・イトー氏である。

☆9月16日号より

自由連合協定承認される

アメリカ合衆国との間において

交された自由連合協定

(注1)が去る9月7日に国民投票

票に付され投票の結果マーシャル諸島の選挙民の58%の支持を得て承認された。最終的な投票結果は無効票の処理が確定していない為に公表されていないが、現在のところ

投票総数 一〇、七二四票
 賛成票 六、二一五票
 反対票 四、五〇九票
 となりその差は一、七〇六票である。(注1) 委任信託統治終了後のマーシャルの将来は本協定の承認により、外交・防衛をアメリカが担当し、内政はアメリカの財政援助を受けてマーシャル諸島政府が担当することとなる。ウォッセ、ヤルト、キリ、ミレなどの島々を中心としたかなりの反対票が投じられた。本協定はアメリカの国内手続が完了すればただちに発効するものと思われる。

☆新造船到着

マジユロ発 9月16日

去る9月7日にマーシャル・フィッシング・デベロップメント・コーポレーション(マーシャル漁業開発会社)の新船2隻が日本より到着した。

タキナル5号(59トン)とタキナル7号(30トン)である。

日本船員がマーシャル船員の訓練終了までアドバイスの為に乗り組む事となっている。

これらの漁船のとして来た魚は輸出され、また一部はマーシャル諸島内へ

出荷される。

☆9月23日号より

コブラ価格上昇

マジユロ発 9月22日

コブラ(ヤシの実)の価格が上昇してきている。離島ものがトン当たり約250ドル、マジユロなど中央産が280ドルとポンド当り14セント上昇している。これはヤシ油等の製品価格の上昇によるものである。(注2)

☆日本の援助

マジユロ発 9月21日

社会公共大臣のチャーリー・T・ドミニック氏によると、日本政府は今度マーシャル諸島に対し、三百五〇万ドル(約八億円)相当の援助を行なうことを決め、84年4月には大型クレーンと離島用農業機械が到着することとなる。

☆9月30日号より

84会計年度第一期予算決定

マジユロ発 9月28日

本日マーシャル諸島議会(ニティジエラ)は総額四百五十二万五千元(約11億円)の84会計年度予算を可決した。

・教育費 五八〇千ドル

一億三、九二〇万円

・保健衛生費 三六八千ドル

八、八三二万円

・通信・運輸費 一六四千ドル

三、九四〇万円

などが主な項目である。(注3)

(注3) 第一期ということなのでおそらく3か月分の予算で、1年間としての予算規模は40〜50億円と思われる。

☆10月14日号より

交通事故発生

マジユロ発 10月13日

昨日ローラ岬近くで交通事故があり一人が死亡、二人が負傷した。死亡したのはローラ岬在住の20歳の青年であった。警察が現在事故原因を調査中である。(注4)

(注4) マジユロでも交通事故があり死者まで出るとはおどろきです。

☆電力消費量25%アップ

マジユロ発 10月12日

マジユロの電力消費量は、発電所のマイク、キングシヨット氏によると、前月は25%のアップであった。

今まで1日当り45メガワットだったものが、今回55メガワットと約10メガワット増加した。これは新しくサンホテルが開業したことや、家庭用電力の消費が増加したことによる。

(山口良二訳)

昭和五十九年二月六日(月)

四十年祭 六日 靖国神社 の御案内

直会旅行会 六日・七日 熱海伊豆山

明けておめでと御座います。

恒例の二月六日の行事について御案内申し上げます。

◎四十年祭と定期総会

午前九時、受付開始、午前十時、四十年祭諸行事、定期総会、参集所で、靖国神社の映画「光の祭典」をビデオで見せて頂きます。

◎九段会館に宿泊を希望される方は、宿泊月日、住所、氏名、性別、年齢を書き、一月十五日迄に料金を添えてお申込み下さい。九段会館は、昨年十月新装開館し、各室ともバス、トイレ、テレビ付の感じの良いホテルに生まれ変わりました。一泊二食付七、三〇〇円です

◎直会旅行会(六日(月)七日(火))

乗物 往復とも豪華な大型観光バス
宿泊 伊豆山温泉 ホテル水葉亭 電話〇五五七一一七―一四四五
費用 小学生以上 一九、〇〇〇円(六日、七日の昼食、宿泊料、参観見学、記念品、記念写真代共)

申込 一月十五日迄に住所、氏名、年齢、性別、を記入し、代金を添えてお申込み下さい。申込み順一〇〇名で締切ります。同室希望は五名位迄ならばできる限り考慮致します。

変更 申込み後の取消しは、すぐご連絡下さい。(電話等で)一月中に連絡の方には全額返金致します。二月に入った場合、取消し料を差引いて返金致します。早い程、返金金額が多く、当日取消の場合は、相当差引かれます。

◎コース 六日、四十年祭並びに総会終了後(午後一時頃)、バスに弁当、お茶等を積みこんで靖国神社を出発します。

今年、直会旅行十五回目に当り、キャッチフレーズは「熟年者の旅」と致しました。オールドの新婚旅行地、熱海、伊豆山。頼朝政子逢瀬のロマン岩風呂、ギリシャ神殿か、ローマ王朝を偲ばせる大浴場をしつらえるホテル水葉亭へ。ゆっくりと温泉を楽しみ、後、若やいだ気持ちでホテル自慢料理に加えて、芸達者な皆様のお国自慢の歌や踊を御披露して頂きます。宴なかばで、くじ引き等も用意しました。

◎七日出発は一〇時です。温泉浴、一万坪の和風庭園の散策、又走り湯、伊豆山神社も近いです。御案内致します。ご自由に楽しんで、いつでも時間は守りましょう。湘南の海岸線バイパスを通り、江の島鎌倉大仏、鶴ヶ岡八幡宮等の参拝見学、昼食は横浜で中華料理等の軽食とします。東京駅着六時の予定、九段会館まで行きます。道路渋滞が予想されます。お帰りの切符は、一時間位余裕をみて、御用意下さい。当日お申込みはお受け出来ないと、念のため

寄 附 者 芳 名

(敬称略)
(五四名)

本欄に掲載の会員各位は、年度会費御完納の上の御寄付であり本会運営に寄与するところ多く役職員一同いつも感謝申し上げます。一層節約を旨とし本務遂行に事欠かぬよう留意致します。すので今後共御協力頂きたく御礼と共に御願い申し上げます。(昭和58年6月1日から昭和58年10月31日までに入金の方)

篤志会員その他

一〇〇〇〇 中島新之丞殿
一〇〇〇〇 早川 恒雄殿
一〇〇〇〇 奥 清一殿
一〇〇〇〇 進藤 進殿

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

〃 〃 〃 〃
一〇〇〇〇 父 西村 保
一〇〇〇〇 兄 池田 精治
一〇〇〇〇 母 刈屋みさを

◇京都府

三〇〇〇 妻 中根 静子

◇兵庫県

五〇〇〇 弟 枝光 剛郎

◇鳥取県

六〇〇〇 妻 藤原 照子

◇山口県

五〇〇〇 妹 井上 照美

◇香川県

五〇〇〇 妻 内富みつよ

◇愛媛県

三〇〇〇 妻 上村コスギ

◇福岡県

八〇〇〇 妻 橋本マサエ

◇佐賀県

一〇〇〇 兄 一木 貞利

◇熊本県

二〇〇〇 妻 大坪チトエ

◇宮崎県

二〇〇〇 妻 大串 キサ

◇鹿児島県

二〇〇〇 妻 草場 マキ

◇鹿儿島県

二〇〇〇 妻 勝木ユリエ

◇鹿儿島県

二〇〇〇 妻 杉田ヨシノ

◇鹿儿島県

二〇〇〇 妻 山内 キク

◇鹿儿島県

二〇〇〇 妻 丸田 キワ

◇鹿儿島県

一〇〇〇 弟 出花 利文

◇鹿儿島県

五〇〇〇 為貝隆之助 (一名)

ギルバート諸島建碑寄附者芳名

故林 幸市様の

御逝去を悼む

本会篤志会員林 幸市様は長らく入院療養中のところ、58年5月21日80年の御生涯を終えられました。

林様は第六根拠地隊参謀としてクゼリン島防衛の作戦に従事し、同島玉砕の二ヶ月前まで一年八ヶ月の間クゼリン島に勤務されました。

37年2月の遺族懇談会には膨大な自筆の資料を抱えて馳せ参じ下さり、39年の二十年祭には八百余名の会員に現地の事情を話して下さいました。

本会の小冊子「クゼリン島の今と昔」に「ありし日のクゼリン」と題し、島の状況、玉砕戦準備の模様などを詳しく執筆して頂きました。

毎年2月6日には私どもと一緒に参拜され、引きつづいて本会に助言と御支援を頂いておりました。

謹んで長い間の本会に対する御協力に厚く御礼を申し上げ、御冥福をお祈りいたします。

事務局だより

◎東太平洋戦没者の碑

39号1頁にお知らせした政府主催の竣工式、追悼式、戦場巡拝の日程は次のようになる模様です。

59年3月22日 日本出発

3月23日 竣工式並びに追悼式
3月24日 マーシャル諸島とギルバート諸島巡拝
3月29日 帰国

厚生省から発表あり次第その内容をお知らせしますので希望者は本部に申出下さい。前に届けた方は結構です。

◎環礁合併本第4集

環礁31号から40号までの合併本第4集を作ります。今回は1号から40号までの総目次を付けますので、索引に便利です。

尚合併本の第1集から第3集も在庫があります。お申込みは振替用紙の通信欄を利用下さい。代価は第1集から第4集まで何れも一部一千元です。

◎キリバ스에寄贈のパーゴラ

39号の8頁に記載されたパーゴラその他の組立て工事は、キリバス常駐の国際協力事業団の新藤様と、今般冷蔵庫建設を請負った大日本土木の皆様にお願しておりましたが、最近の新藤様のお手紙によりますと、11月2日に工事が完了したそうです。設置場所は当初のお話の波止場ではなく、南瀛の碑のある慰霊公園の一角になった由です。

◎兼高かおるさん タラワへ

39号に8月下旬から9月上旬にTB Sで放映の予定と書きましたが、局の都合で11月20日に放映されました。2月6日の直会旅行に水葉亭でビデオを以てお目にかけます。

謹賀新年

昭和五十九年元旦

◎本会役員及び篤志会員

相談役	朝香 孚彦	篤志会員	石垣 清
会長	浮田 信家	同	板野 一
副会長	佐藤 宗五	同	大村 克
同	橋口 昭利	同	嘉村 栄
同	三ッ木 正次	同	木ノ下 甫
同	井上 賀雄	同	ケイス・エス・ウイリアムス・ジョン・ウイリス
同	田中 雄吉	同	瀬 光久
同	荒木 常平	同	千 秀夫
同	大高 正郎	同	土 屋 太
同	岡野 吉文	同	徳 原 徳
同	木下 満子	同	中 島 昌
同	木村 久江	同	徳 原 徳
同	国松 ふみ江	同	成 田 喜
同	小泉 文江	同	中 島 昌
同	佐竹 エス	同	西 村 祐
同	柴崎 晃	同	成 田 喜
同	高橋 功	同	長 谷 川 栄
同	高山 芳夫	同	長 谷 川 栄
同	山口 良二	同	松 岡 永
同	秋山 清	同	長 谷 川 栄
同	秋山 清	同	森 岡 永
同	高橋 清	同	村 岡 永
同	高橋 清	同	横 山 喜
同	高橋 清	同	横 山 喜
同	高橋 清	同	安 藤 幸
同	高橋 清	同	安 藤 幸
同	高橋 清	同	本 木 光
同	高橋 清	同	本 木 光

◎直会旅行世話人交替

毎年2月6日の直会旅行の世話人はここ数年荒木、岡野両幹事が担当してきましたが、今回は、大高、木下、佐竹、高橋の各幹事が担当することになりました。今までと同様御満足頂けるようにと計画を練っておりますので御期待下さい。

本 部

郵便番号 一五四
東京都世田谷区野沢 三丁目十一番三号
マーシャル方面遺族会
電話 ○三三四二四一四三〇〇番